

そだちサポートプロジェクト

令和6年度 第2回 そだサポ研修&交流会

事後アンケート集計

開催日 令和6年9月6日（金） 18：30～20：20

参加者： 51名（講師、事務局除き、48名）

・事業所（オブザーバー含む）	11	/	16	回答率：	69%
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>					
・回答者数（個人）	22	/	48名	回答率：	46%

1. 事業所やお住まいがある地域はどちらですか？

奄美	与論	鹿児島
18	1	3

2. 今回の事業所研修&交流会はいかがでしたか？

全く満足していない ⇔ 満足している		
①	②	③
		22

3. 今回の事業所研修&交流会は日々の業務等に役立つと思われましたか？

全くそう思わない ⇔ とてもそう思う		
①	②	③
		22

4. 前半の研修はいかがでしたか？

テーマ：「児童発達支援ガイドラインの改定に向けて/子どもの様子/記録のコツ」

全く満足していない ⇔ 満足している				
①	②	③	④	⑤
				22

5. 前半の研修について、意見や感想を自由に書いてください。（時間の長さやテーマなど）

【研修内容について：前半】

- ・放デイのガイドライン改定に「外からは見えない心の内面を大切にする」ということが謳われているということに感動した。
- ・放デイのガイドラインのポイントの説明が分かりやすくとてもありがたかった。（2）
- ・「こどもまんなか」を柱にしながら支援することが大切だと改めて学ぶことができた。今後の子ども達との会話にもその考え方を活かしていきたい。
- ・子ども達の話をもっともっと聴いて行きたいと思った。
- ・放デイガイドラインの改定や内容については、おおまかにしか理解できていなかったが、大事なポイントを解説していただきありがたかった。
- ・改定されたガイドラインについて大切なポイントを説明していただきわかりやすかった。
- ・改訂ガイドラインのポイントを簡潔に説明してもらえたので、要点がすっと入ってきた。
- ・「自尊心」「主体性」という漢字を見て自分なりのイメージを持っていたが、実際にその意味を噛み砕いて説明していただいたことで、一人で考えるよりもとても納得がいった。
- ・5領域について、再度自分自身が学び直し、その視点を踏まえた上で子ども達それぞれに合った支援をしていきたいと感じた。

- ・ガイドラインをもとに事業所の支援と照らし合わせて説明していただき、わかりやすかった。
- ・現在、年長の担当として、今担当している子ども達に当てはまる部分も多くあり、思い浮かべながら今後の取り組みについて考えた。
- ・わかりやすい内容だったので、放デイの子どもたちを思い浮かべながら振り返って資料をまた読みたいと思う。

【研修内容について：後半】

- ・「子どもの育ちの連続性を意識した支援」の話聴いて、これからの支援で子どもの声を聞いていきたいと思った。
- ・アイメッセージの話聴いて、自分の思いをアイメッセージに言い換えて主体性を促す声掛けが自分ではできていなかったの今後意識していきたいと思った。
- ・小学校高学年では、仲間との「秘密の世界」を共有、友情の芽生えで仲間関係がうまくいかない大人との関係もうまくいかないという話を聞いて、はっとした。大人になってから他の人との関係性がうまく取れない状況につながらないように、療育での支援で少しずつで基盤をしっかり作っていくことが大切だと感じた。
- ・これまで積み上げてきた丁寧な支援を今後も心がけていく中で、「こどもの話を聴く」に焦点をあてた今回のテーマは、忙しい日々の中でどれだけ子どもの話を聴き、その思いが汲み取れているかということについて、参加者の多くからこれまでの支援を振り返る感想が出されていた。
- ・「本人を中心にした支援」について改めて考えさせられる内容だった。
- ・大人は、子どもの内面に対して、気づき、そう思ったことに対して、ありのままを受け止めていくことや、本人が内発的に動き始めることを待つ大切さについて改めて確認出来てとても良かった。
- ・自分の中に湧き上がってくる思いについて、気づいていない子どもの感情について「ラベリング」してわかりやすくするという支援も、必要に合わせて、丁寧に行っていきたいと思った。
- ・具体例があり、分かりやすかった。

【研修の進め方について】

- ・限られた時間の中で要点を押さえた内容でとても分かりやすかった。（まだまだ聞きたかった）

【時間設定や、時間の長さについて】

- ・時間設定その他もよかった。（2）

【感想・その他】

- ・前半後半どちらもとても分かりやすく、明日から取り入れることのできる学びだった。
- ・テーマが良かった。（2）
- ・子どもの主体性や自己肯定感を育てながら、今後の支援に取り組みたいと思った
- ・とても分かりやすかったの、事業所内でも今回の研修を共有する機会を作りたいと思った。
- ・自分自身を振り返る良い機会になった。
- ・具体的に項目が分かれていてわかりやすかった。
- ・支援計画を作成する際や子どもたちとの関わりの中で活かせると思った。
- ・次からの子どもたちへの関わり方から意識していきたいと思った。
- ・自身が保護者でもあり、自分の子どもともかぶるところもあるため、日々の生活、療育としても話を丁寧に聴いていきたいと思った。
- ・子どもたちにとって安心できる人、場所であるように丁寧なオーダーメイドの支援を心掛けていきたい。（2）
- ・放デイが明日からの学校生活へのパワーチャージができる場になるように務めたい。

6. 後半の交流会はいかがでしたか？

全く満足していない		⇔	満足している		不参加	未記入
①	②	③	④	⑤		
			1	20	1	

7. 後半の交流会について、意見や感想を自由に書いてください。

【参考になった点について】

- ・疑問に思ったことや、現場で悩みながら対応していることを相談したり、話し合うことができて、大変良い機会となった。
- ・日頃の活動の話から、支援者として「してほしい」活動への誘い方など、各事業所や先生方の意見を聴くことができ、これからの支援に生かしていきたいと思った。
- ・他事業所との意見交換では、それぞれの事業所の活動の内容や言葉かけが参考になった。
- ・活動の決め方や子供の想いを尊重しながらの誘いかけなど、普段気になっていることを他の事業所に聞くことが出来て、ありがたい場だった。参考にしていきたい (2)
- ・他事業所での取り組みや学校の先生の意見を聞いたのは良かった。
- ・他事業所での出来事や困りごとを通して、自分の事業所での支援について考えることができた。
- ・オンライン上だが、話しやすい空間の中で、各事業所から出された「こんな時どうしてる？」という質問に対し、色々な意見が聴けたり、自身の支援を振り返ったりする良い機会が持てた。
- ・離島は、事業所同士の研修や意見交換の場が少ないので、フリーテーマで相談出来る機会はありがたかった。(たくさん質問することができた)
- ・子どもの環境を整えるという点では、学校現場と同じだと思った。
- ・放デイは、環境を整えるために、保護者のメンタルヘルス等への配慮や、祖父母への協力を求めるなど、子どもを取り巻く周辺へも意識を向けているということに驚いた。
- ・それぞれの職種で感じている疑問について、有意義に意見交換や交流ができ、楽しかった。
- ・聞きなれない言葉あったが、そのこと自体も気づきになり、積極的な交流が出来て良かった。
- ・まずは、子どもたちにとって、安心できる場所、存在となれるよう、子ども達の言葉を待てるようになりたいと思った。
- ・研修の感想から発展させて、様々なことを知る学びの場になった。
- ・祖父母や医療関係機関との連携が大切だと感じた。

【その他（時間、オンライン環境、GWの雰囲気等）】

- ・各事業所や学校の先生方が、お互いにリスペクトし合っている雰囲気の中、濃い内容の話ができてとても良かった。
- ・参加者が積極的に意見を出してくれたのでファシリとしては進めやすかった。
(皆さんにお一人お一人に声を出してもらえることを意識して進行を行った)
- ・各事業所の話聴くことで勉強になった。(2)
- ・先生たちもグループに入ること、分からないことや難しいことも、その場で解決もしくは一歩前進することができて、とても学びの深い時間だった。
- ・意見を出しやすい環境でとてもよかった。
- ・時間の長さは丁度良かった。
- ・時間がもう少し欲しいと思うくらいだったが、丁度良かったと思う。
- ・交流の時間がもっとあるとよい。
- ・いつもは交流会の時間が短いので、話を深めることが出来ないと思ってしまうが、今回は、最初から、積極的なスタンスで入っていったので、丁度良く終わることが出来て楽しかった。

8.事業所代表の方のみお答えください。（各事業所からの質問事項）

①外部との支援会議や保護者面談の日程調整をどのような形で行っていますか。

- ・保護者と相談支援事業所が決めた日程に合わせられる時は、合わせている。個別支援計画作成月が近い時は、事業所から保護者に日程を確認してから相談支援事業所にも伝えている。
- ・保護者面談については、「〇月～〇月の間で都合の良い日を教えてください」と連絡帳もしくは、直接保護者に伝えるなどで日程調整を行っている。
- ・保護者面談については、2～3週間の間で、保護者の希望を聞いた上で調整している。
- ・保護者面談は利用日に見学を兼ねてお願いしたり、保護者の都合の良い日時に来所してもらっている。（LINE,TEL,連絡帳等で日程調整）
- ・会議の日程調整は特に保護者が何度も足をが運ばなくていいように、相談支援、事業所、並行通園先と一緒に面談を組み、共有するようにしている。（全員が揃うことは難しいが、この流れでうまく行っていると感じている）
- ・日程調整については、相談支援専門員がやってくれているので助かっている。
- ・事業所から目的、日程を複数提案して回答をペーパーで交換している。
- ・主に電話連絡にて調整している。（2）
- ・支援会議については、主に相談支援専門員主体で日程調整を行ってもらっている。
- ・外部との支援会議は相談支援専門員と連携をとり、調整または事業所から依頼している。
- ・外部との支援会議は主に相談支援専門員に日程調整をお願いしている。

③業務効率化へ向けてどのようなことに取り組んでいますか

- ・リタリコを導入。重要でない作業は除いたり、意見を出し合って、業務高陸化に向けて取り組んでいる。
- ・記録を紙媒体からiPadやパソコンで記録するようにした。（業務効率化できているかは不明）
- ・日々の活動記録や利用実績など「ケアカルテ」というソフトを導入している。そのソフトを活用するため、wi-fiの設置やパソコン、タブレットを各クラス分台数を確保するなど、環境整備も行っている。
- ・国保請求、子どもの支援記録を同じソフトにて入力している。パソコンだけでなく、タブレットを数台利用しながら、並行して日々の記録をつけている。
- ・目標達成のスケジュール管理については、年間計画を立て、各クラスでスケジュール管理を行い、面談時期なども被らないように調整している。
- ・スケジュール管理は可視化して、職員がいつでも確認できるようにしている。
- ・エクセルで自動化できる作業は自動化している。
- ・業務書類を見直し、必要なポイントを押さえながらスリム化を検討している。
- ・ソフトについてはまだ検討中。アセスメントとプランの連動やどのソフトが自分たちがアセスメントする際にマッチするかなど確認が必要と考えている。
- ・なかなか効率化の取り組みはできていないように思う。
- ・現在、絶賛模索中。